

新年のごあいさつ

平成31年の新春を迎えて

津市長 前葉 泰幸

津市民の皆様、あけましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年4月から新しい総合計画をスタートさせ、総合計画の一丁目一番地に掲げた未来を担う子どもたちのための施策として、市立初の3つの幼保連携型認定こども園の開園、未就学児の子ども医療費の窓口無料化を始めました。

安全で安心して暮らすことができるための施策では、津北部地域の海岸堤防整備、大谷踏切の拡幅、津興橋の架け替えに着工しました。

また、高校総体の5競技が市内6会場で開催され、新たな津市のランドマークとなったサオリーナ・三重武道館には、オープンから1年間で目標来場者数を大きく上回る51万7,000人の方にお越しいただきました。2021年の三重とこわか国体・三重とこわか大会に向けて、市民の皆様がスポーツや健康づくりへの関心の高まりを感じることができた年となりました。

今年の5月には元号が変わり、国全体が平成から新しい元号のもと、新しい時代の幕が開けます。平成という時代を振り返れば、情報通信技術の飛躍的な革新によって、人材、資源、情報などが、国内外の垣根を超え、社会や経済のグローバル化が一気に加速する一方、バブル経済のピークから一転、日本経済は長期にわたり低迷したものの、不断の努力でこれを乗り越えてきました。地方自治体では大きな転換を迎え、全国で「平成の大合併」が進むなか、本市においても10市町村が行政という垣根を超え、合併という偉業を成し遂げ、時代の流れに柔軟に対応できる持続可能なまちづくりを進めてきました。

社会経済が大きな成長を遂げ、成熟化が進んだ今の日本がこれから歩み始めようとする時代は、人口減少がさらに進むなかであっても、その成熟を力に、質の向上や新たな価値観の創造など、可能性を秘めた多様性のある社会へと進んでいくのではないのでしょうか。本市においても、平成の時代に築き上げてきたまちづくりの土台を礎にして、県都津市の新時代を切り拓いていかなければなりません。これからも津市は志高く、誰もが将来に夢や希望を持てるまちづくりに向けて市民の皆様とともに歩んでまいります。

皆様にとって、本年が希望に満ちあふれる年となりますことをお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。